

入賞作品紹介 2

中学生の部親子賞 最優秀賞

チャレンジのかけ橋

白河市、
石川義塾中2年 菊地 未柚さん

「未柚ちゃんが新聞に載っているのを見て、いつも元気をもらっています。これからも頑張ってくださいね。応援しています」

一月一日、県内の親戚から届いた年賀状には、こんなコメントがたくさん書いてありました。少し照れくさかったけど、素直にとってもうれしかったです。

中学生になって、出会いと機会に恵まれ、様々な事にチャレンジしてきました。中学一年生の時には、七月に北方領土の視察団として北海道へ。三月には福島県の中高生

とプロの演出家・音楽家などによる創作ミュージカルにも参加しました。中学二年生になってから、夏に「ふくしま復興大使」に任命され、九月には会津、十月には奈良県での活動に参加しました。現在は戊辰百五十周年記念の楽劇「影向のホレロ」に参加し、稽古に励んでいます。

様々な事にチャレンジすると、新聞に取り上げられる機会も多くなりまします。そんな中で、自分の中で悩んでしまうこともあります。今までのチャレンジは自己満足に

なってしまうのでいいか。新聞に載って目立ちたいだけなのではないか。本当に誰かのためにならなくていいのかと、答えのない問いをひたすら考えてしまう時がありました。しかし、親戚からかけてもらった言葉のひとつひとつが、自分の心の中にあつた悩みを取り払ってくれました。「私が頑張ることで誰かを元気づけている」。そう気付くことができた瞬間でした。

祖父のスクラップブック

母 菊地 美希さん

二十年前に他界した祖父の話です。小学校の校長職を勤め上げた祖父は、厳格でとにかく頑固。冗談めいた話をした記憶もないほど、しつこに厳

前のめりになっていて姿は、年老いていく度かわいらしさも感じるほどでした。祖父の座椅子の後ろには小さな物入れがあり、祖父は気になる新聞記事を見つけては、切り抜きをしてそこに入れていました。何が入っているのか、ずっと気になっていたのですが、祖父に聞くこともできず、ある日祖父が留守の間にそっとのぞいたことがありました。そこには、分野ごとに分けられたスクラップブックが数冊。「料理」「旅行」「随筆」…「美希」「博道」。私と兄の名前が書いてあるスクラップブックが一冊ずつ入っていました。半信半疑で表紙を開くと、新聞名、日付が書いてある切り抜き記事が几帳面にびっしり

りと貼り付けてありました。私の部活動の大会結果、作文コンクールの入賞、小学校時代のゴミ収集の報告…。小さな記事から大きな記事まで。見つけた当時は驚きの気持ちが大いだけでしたが、祖父が亡くなって二十年。私にも家族ができ、娘が生まれ、あの厳格な祖父が私達兄弟の頑張りを楽しみに新聞を開き、目を細めながら切り取っていたかと思うと、胸がぐっと熱くなりました。当時は難しただけだった祖父の言葉も今になって、心に響くものになって、心が響くものになりました。今は、私が娘たち一人ひとりのチャレンジの結果を主人と一緒に待ちわびながら新聞に目を通し、きれいにきれいに切り取っています。

読む 知る 学ぶ

